



未来の「地域の足」をつくる挑戦

～グリーンスローモビリティと自動運転バス

皆さん、こんにちは。さいたま市長の清水勇人です。

さいたま市ではいま、新たな公共交通の実証実験が始まっています。時速20キロ以下住宅街をゆっくりと走る低速電動車「グリーンスローモビリティ」（グリスロ）と、大型バスの自動運転の取り組みです。どちらも、これから地域交通を考え上で欠かせない社会インフラとして期待されています。

背景には、市民の皆さんから寄せられる「移動の困りごと」があります。近年、少子高齢化や運転者不足、路線バスの減便・廃止などが顕在化。「地域交通の確保」は今年度の市長タウンミーティングのテーマでもあり、10区それぞれの課題や様々なご意見を聞かせていただきました。

■多様なモビリティで 暮らしを便利に 移動をもっと快適に

さいたま市ではこれまでにも、AIが最適ルートを導くデマンド交通や、地域住民の足となる乗合タクシーなど、地域の実情に応じた柔軟な交通サービスを積み重ねてきました。

少子高齢社会を迎える中で、市民の暮らしをより便利に、もっと快適に。あらたな交通システムの段階的な導入実現に向けて、ひき続き丁寧な議論を進めています。



大阪・関西万博でさいたま市ブースが大盛況！



盛況のうちに幕を閉じた大阪・関西万博。さいたま市は5日間にわたりブース出展し、約22,000人にご来場いただきました。大宮盆栽や岩槻人形など本市の誇る伝統文化の認知度向上、さいたま市の都市イメージの向上に大きくつながったと考えます。

大阪万博を契機に、さいたまの魅力を国内外に発信し、開催効果を地域の活性化に活かしてまいります。